

第 64 回 企業活性化研究分科会・議事録

<第六四回 2014 年 1 月 25 日（土）時間：13：30～17：00 於：専修大学（神田校舎）>

参加者：尼野、石川、井端、大野、木村、小林、菅原、杉本、夏目、浜田、宮川、山本、渡邊（13 名）

1. テーマ：警察における活動内容と組織統制の在り方

- ・ 講演者：石川輝行
- ・ 資料：報告時パワーポイント有
- ・ 講演内容の要旨

本講演は、警察の捜査とその公開されている情報のギャップを取り上げ、そのギャップが生じる原因を認識するための内容である。また、警察における組織マネジメントについて明らかにした。

まずメディアに公開されている情報は、捜査活動の一部のみ公開された内容である。メディアは、その内容の一部に、メディアの調査および見解を加えて報じている。そうしたことで、本来の事件内容に認識の違いを生じさせていることを指摘した。次に、これまでの現場、指揮監督経験を踏まえ、組織における組織行動の基本と、トップにおける組織コントロール、リスクマネジメントについて知見を述べた。組織のコントロールとマネジメントのためには、現場との綿密なコミュニケーションをとり、些細な情報でも耳を傾け、その情報を踏まえて思索することの重要性を明かした。

2. テーマ：再生企業の分析－沖電気工業株式会社の場合－

- ・ 報告者：小林宗一郎
- ・ 配付資料：9 枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告は、沖電気工業株式会社（以下、沖電気とする）の再生戦略の実施とその効果について、財務数値の推移と収益性分析から検討した。

沖電気は 2008 年に半導体事業を売却し、その後売上高は減少傾向にある。2012 年には関係会社の OKI SYSTEMS IBERICA, S.A.U（以下、OSIB とする）による粉飾が発覚した。OSIB は企業規模に対して粉飾金額が大きいにもかかわらず、発見が遅れたことは企業のガバナンス、内部統制に問題があったことを指摘した。

次に収益性分析では、ROE とその構成要素である M（売上高利払前当期純利益率）と T（総資産回転率）を中心に検討した。ROE の数値は不採算事業の売却による資産の効率性が寄与して変化しているものと考えられるが、各自の計算した結果と異なる点が多く、ROE の計算項目に議論が生じた。その議論では純資産額の減少している点、数期前の大幅な損失計上に起因する点があげられるとの指摘を受けた。また、売上高と当期純利益の連単倍率、単体の収益性を検討した。その結果、連結子会社内の中身、沖電気の事業構造について詳細な検討を加え、再生戦略の策定と実行について十分な検討を加える必要があるとの結論にいたった。そのため次回の分科会で補足説明をおこなう予定である。

（文責：夏目拓哉）